

令和7年度
(2025年度)

運営に関する計画



大阪市立大道南小学校

大阪市立大道南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 学力経年調査における平均正答率が国語科については改善が見られた。しかしながら、算数科はあまり向上が見られず、基礎学力の向上が喫緊の課題である。そのため、本年度より算数科を研究教科として、基礎学力の向上を図るための研究に取り組んでいく。
- 本校では全国学力・学習状況調査、大阪市小学校学力経年調査において、大阪市平均を下回る結果が続いている。また、全国学力学習調査における、区分Ⅳの割合が国語科36.4%、算数科43.9%となっており、基礎学力の定着が低い層の底上げを図ることが課題である。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と思っている児童が8割を超える状況となっているが、まだまだ子どもたちの中で、人を傷つけるような発言があることも事実としてある。子どもたちが安心・安全に学校生活を送っていくために、自尊感情を高め、他者を思いやる気持ちを身につけさせていく必要がある。
- 全児童に「家庭学習のてびき」を配布し、家庭学習の大切さについて啓発をしている。しかし、自主学習等、家庭でも進んで学習する習慣が身につけている児童は少ないのが現状である。今後、チェックリストの活用や「家庭学習のてびき」の活用等、学年や発達段階、児童の実態等について共通理解を図りながら取り組んでいく。
- 芸術や文化に触れる機会を毎年各学年行事などに絡めて実施してきたが、新型コロナウイルスの感染状況により、この2年間はほぼできていない。今後は状況を見て増やしていく。
- 計画的にC-netを活用して外国語活動の取り組みを行うことができおり、今後も継続し充実させていく。
- 全校遠足を加え、異学年交流の幅を広げることで互いを認め合う活動の場を増やしてきたが、行事を中止せざるを得ない状況も多かった。今後さらにキッズ班の活動以外にも様々な異学年交流の活動を取り組む機会を作っていく。
- 「学校安心ルール」に基づいて安全に生活する児童を育成するために、引き続き指導が必要である。そのためにも学校のルールやきまりなどについて教職員の共通理解を深めていくとともに、児童会などで子どもたちが自らルールなどを話し合う活動を活発にしていく必要がある。
- 健康な生活習慣を身につけさせるため、計画通りに学期に1回必ず清潔週間を実施し、チェックカードを活用して振り返りを行っている。清潔に関する意識はアンケート調査によると毎年向上している。今後も継続して学校全体でハンカチ・はな紙の携行、身だしなみを整える習慣が身につくように指導していく。また、家庭や保護者にも継続しての啓発を行っていく。
- 体力の保持増進については、体育の授業の工夫に努め、また水泳やなわとび運動、かけあし週間などにも学校全体で取り組み、子どもたちの体力づくりに努めている。また体力・運動能力テストの結果からは、特に20mシャトルラン・反復横跳び等に課題が見られたので、筋持久力や敏捷性を向上させる取り組みを中心に、より体力の向上に努めていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

安全・安心な教育環境の実現

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。

豊かな心の育成

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、校内調査で「自分のよいところや、相手のよいところを見つけることができたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

誰一人取り残さない学力の向上

- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合をいずれの学年も20%以下にする。
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査において、学力に課題のみられる児童生徒（区分Ⅳ）の割合（国語科36.4%、算数科43.9%）を、令和7年度に国語科、算数科ともに30%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 将来必要となるプログラミング的思考力を育むため、全学年においてプログラミングの授業を年1回実施する。

健やかな体の育成

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 特に課題である20mシャトルランと反復横跳びの記録を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、令和3年度より3ポイント増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

- 令和7年度末の校内調査で「学習者用端末を活用して、与えられた学習課題を解決することができる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。

人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ゆとりの日については、週1回以上設定し、学校閉庁日については、夏季・冬季休業中で3日以上設定する。

生涯学習の支援

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査で「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっていますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を、令和4年度より3ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童を93%以上にする。
(R6：経年 92.5% 校内 100%)
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。
(R6：経年 85.4% 校内 91%)
- 小学校学力経年調査・校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
(R6：経年 92.5% 校内 86%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を51%以上にする。
(R6：経年 50% 校内 55%)
- 小学校学力経年調査・校内調査における「国語の学習が好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。
(R6：経年 72.9% 校内 76%)
- 小学校学力経年調査・校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。
(R6：経年 67.6% 校内 67%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の67%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)
(R6：66.7%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を67%以上にする。
(R6：66.7%)
- 小学校学力経年調査・校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を51%以上にする。
(R6：経年 50.4%・校内 69%)

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、教職員の異動が少なく4月当初より、積極的に昨年度の反省を活かした教育活動に取り組むことができた。全教職員が共通理解を持ち、年度目標達成に取り組むことで目標を達成し一定の成果が見られた。しかし、それと共に次年度に向けた課題も見えてきた。ここでは、最重要目標について総括していく。

最重要目標1 安全・安心な教育の推進

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は96.1%となり、中期目標を大きく達成した。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対し、92%の児童が肯定的に回答しており、この項目においても中期目標を達成した。さらに、「学校のきまりを守っていますか」に対し校内調査において93.5%が肯定的に回答し中期目標を達成した。今年度不登校児童が0人となり、全児童が安心・安全に学校に通えている現状である。いじめ重大事案に至るケースはなく、心の天気の入力や相談申告機能に注視し、いじめの未然防止・早期解決に努めた結果といえる。しかし、人の気持ちを考えた行動ができなかったり、人権意識の低さを感じさせる言動があったりとまだまだ児童間トラブルも多い。今後は、さらに自己肯定感を高める活動を取り入れ、児童一人ひとりがお互いを認め、より深く相手を理解し合える関係づくりについて、さらに具体的な教育活動を思案し実践していく必要がある。

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は、3年生13.5%、4年生21.2%、5年生35.5%、6年生13.5%となり、2学年で目標を大きく達成した。5年生において割合が多くなったが全学年の平均値では20%となり、目標達成に向けて学校全体で基礎基本の学力の向上に取り組んできた成果が表れたといえる。さらに、3年生においては全教科において大阪市平均を上回るまたは同値となり、本校の大きな課題である学力向上に向けて大きく前進している。さらに、令和7年度の全国学力・学習調査において区分Ⅳに該当する児童の割合は国語科33.3%、算数科26.7%となり、算数科において中期目標を達成した、国語科も年々目標値に迫ってきており、基礎基本の学力の定着が確実に進んでいる。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にするについて、今年度は29.8%となり目標を達成することができなかったが、研究教科を中心に、話し合い活動の在り方について学校全体で取り組みを進めており、低学年においては、高い数値もみられる。今後、さらに話し合い活動の質を高め、児童が自分の考えが深まったり、広めたりできたという実感を持つことができるよう取り組んでいく。

- 体力の向上では、令和7年度全国運動能力・運動習慣調査において「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、66.7%となり、中期目標をわずかに達成することができなかった。しかし、年度によっては達成していることもあり、耐寒かけあし週間やなわとび週間など、全校児童で一体感をもって取り組む活動を通して、友達と共に目標に向かってお互いを励まし合いながら高め合っていく経験から、体動かす楽しみや喜びに触れる体験をすることで、少しずつ運動することに対して前向きに取り組むことができる児童が増えてきたと思われる。しかし、児童の中には学校以外で運動する時間が全くないという児童もおり、そのような児童に対しどのようにアプローチしていくか次年度に向けて検討していく必要がある。

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実

- 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進については、令和7年度末校内調査において「学習者用端末を使用して、与えられた学習課題を解決することができる」に対し、95.8%の児童が肯定的な回答をしており、中期目標を大きく超えて達成した。本校は20代、30代といった若い教員が大多数を占めており、学習者用端末の活用について柔軟な考えを持っており、授業では積極的に活用している。また、視聴覚主任やCIOを中心に校内研修を行ったり、ICT支援員を活用し学習者用端末使用のバリエーションを増やしたりすることで児童も教員もスキルアップを図っている。
- 人材の確保・育成としなやかな組織づくりの視点では、ゆとりの日を週に1回設定し、そのことを教職員に意識させた計画的な業務遂行を実行することで、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が年々増加しており、教員の長時間労働の改善も図れている。
- 生涯学習の支援の視点では、令和7年度経年調査・校内調査において「読書は好きですか」に対して、経年調査56%、校内調査68.7%となり中期目標の80%を達成することができなかった。要因としては、学習者用端末の普及により、調べ学習や朝学習時も端末を活用しており、児童が本を手取る機会の減少があげられる。また、基礎基本の学力の向上のため、漢字検定などの取り組みを取り入れたため、学校で読書に親しむ時間が減少したことも考えられる。しかし、今年度は給食の時間の読み聞かせや、団体貸し出しの回数を増やすなど教員が積極的に読書活動を推進していくことで、本に興味を持つ児童が増加していると実感している。来年度は、「休み時間は読書をしよう週間」や「児童や教員の推薦図書」を掲示する計画も立てており、少しでも多くの児童が読書に親しめるよう取り組みを進めていく。

どの教育活動においても学校の特色を生かしつつ、教職員が一丸となって取り組んできた結果、多くの項目で中期目標を達成することができている。今後は学校の中期目標の各項目の成果と課題を教職員で共通理解のもと、次年度以降の取り組みへとつなげていく。

大阪市立大道南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童を93%以上にする。 (R6：経年92.5% 校内100%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。 (R6：経年85.4% 校内91%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。 (R6：経年92.5% 校内86%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめについて考える日の取り組みや、道徳の学習、学校のルールを守り安心安全な生活を送ることを意識した生活指導を通して、いじめをなくしていくという気持ちを育てられるよう取り組みを進める。 	A
<p>指標 ・ 小学校学力経年調査・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を93%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規律について学校全体で共通理解を持ち、全員が集中して学習に取り組める学習環境を確立させる。 	A
<p>指標 ・ 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童同士でそれぞれのよさを見つけるいいところみや、たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動といった異学年交流を通じて、「ほめられる喜び」、「自分の役割を果たした達成感」を実感し、自尊心を高められるようにする。 	B
<p>指標 ・ 小学校学力経年調査・校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① アンケート結果では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目についての最も肯定的な回答が全体として96.1%と高い結果であった。「いじめについて考える日」における学年に応じた指導や、いじめは許さないという指導を続けてきたことで、学校全体として「いじめ」について考えることができた結果であると考えられる。いじめ対策委員会やいじめに関する研修を通じて、教職員間でいじめに関する共通理解を図ることで教職員の意識は向上している。児童の中でも「いじめはしてはいけないこと」という認識はできてきている。しかし、まだ突発的に暴言が出てしまう児童や、「何がいじめにあたるか」を十分に理解できていない児童もいる。
- ② アンケート結果では、「学校のきまりを守っていますか」の項目に肯定的に回答している児童の割合は全校で93.5%と、目標を上回った。取り組みとしては、生活指導部を中心とした日々の登校指導や「学校安心ルール」の提示、児童会活動を中心とした「あいさつ運動」、「次の授業の準備をしよう週間」に加えて、児童に重点的に守らせたい規律を整理した「規律に関するチェックシート」の活用を今年度から新たに始めた。これにより、規律を守らせようとする教職員の意識がさらに向上してきた。しかし、アンケート結果と児童の実態は必ずしも一致しているわけではなく、一部の児童については規律を守れていない様子がみられ、何度も同じ指導が必要になるという現状もある。
- ③ アンケート結果では、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して肯定的に回答している児童の割合は88.9%であり、目標の93%を下回った。委員会活動やクラブ活動、たてわり活動において、高学年の児童が責任を持って役割を果たす姿が多くみられたが、児童がお互いの活動を認め合うことや、がんばったことを誰かにほめてもらうという機会が少ないことで、自己肯定感の低い児童が多くなってしまったと考えられる。各学級において相手のよいところをたくさん見つけてほめる活動を取り入れ、ほめることを意識している教職員も多いが、課題の多い児童ほど普段はほめられることが少なくなっているという現状がある。

今後の課題

- ① いじめにつながりかねないような言動をする児童に対しては、個別に教職員がいじめや差別に関する言動を正しく指導する必要がある。そのためには、「何がいじめにあたるのか」という教職員間でのいじめに関する共通意識の更なる向上が必要である。また、アンケート結果についても最も肯定的な回答が100%となるよう取り組みを続けていく必要がある。
- ② 「規律に関するチェックシート」の重点項目を精査し増やしていくことで、教職員の意識の向上及び児童が「守らなければいけない」と考える規律を増やしていく。また、児童が主体的に規律を守ろうとする風土作りのために、教職員だけではなく児童自身が実際に自分の行動について振り返る仕組みを作ることも検討していく必要がある。
- ③ 係活動や当番活動といった普段の生活や、国語、算数などの学習面について、児童が自分自身のことを定期的に振り返り、自分自身で「がんばった」「できている」と自信を持てるような仕組みづくりを検討していく。これにより、教職員も自然と児童のことをほめる機会が増え、児童の自己肯定感の向上につながるのではないかと考えられる。また、年度当初から異学年の交流計画をたて、たてわり活動や児童集会、周年行事に向けた取り組みなどを行っていくことで、児童同士でお互いを認め合ったり、人の役に立つ経験したりすることができるのではないかと考える。

大阪市立大道南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を51%以上にする。 (R6：経年50% 校内55%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「国語の学習が好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。 (R6：経年72.9% 校内76%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。 (R6：経年67.6% 校内67%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践し積極的に交流活動を取り入れることで、児童の表現力を向上させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を低学年で68%以上、高学年で48%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科の研究を通して、主体的に授業に参加しようとする意欲を育み、国語の学習が好きな児童を増やす。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査・校内調査における「国語の学習が好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育の学習を充実させ、なわとび週間やかけ足週間等を設定し、学校全体で取り組むことで体力の向上を図り、さらに食への関心を高める指導や毎日清潔に過ごす習慣を身につけさせる指導をすることで健やかな体の育成を推進する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査・校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① アンケート結果では、「友だちと話し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできましたか」の質問に対して、最も肯定的な回答をした児童の割合は、全体で49.6%、低学年では66.1%、高学年では31.1%と目標を上回ることができなかった。肯定的な回答は、92.2%と高い数値が見られるため、話し合いに役割を与えたり、グループトークの回数を増やしたりすることで、話し合う力がついた児童が増えたと考えられる。一方で、話し合いの質を高めるという点で、自信をもって深めたと思うに至っていないと読み取れる。
- ② アンケート結果では、「国語の学習が好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合は、76.2%と目標を上回ることができなかった。公開授業や研究授業を通して、国語科の学習を工夫するようにしてきたが、中間評価の結果よりも低下してしまっている。国語力を高めるために、「総合的読解力」の学習も活用し、要約や視写など書く活動をたくさん取り入れた。そのことで、書く活動に苦手意識を持つ児童が国語の学習を好きになれなかったと考えられる。
- 一方で、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対しては肯定的回答が93%なので、着実に力をつけてきている。
- ③ 「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目では、中間の時に比べて最も肯定的な回答が70%から73%と上昇していた。運動会や耐寒かけあしなどの体育的行事では、意欲的に取り組む児童も多く見られた。各学年に応じた目標設定が意欲向上に繋がったのではないかと考えられる。休み時間に関しては、季節によって外で遊ぶ児童の数に差があった。今年度は、学級のみんな遊びなどを通して、担任の先生も一緒に遊ぶ姿が多く見られた。児童もつられて外で遊ぶことが増え、楽しみながら体を動かしていた。また、放課後にも教師・児童と一緒に遊び、体を動かすことができていた。
- 清潔調べ週間では、児童の意識も年々高まっており、ハンカチ・ティッシュを持ってくるなど清潔に過ごそうと意識できている。しかし、清潔調べ週間以外の日には、年間を通してみると所持率はまだまだ低いように感じる。食については、例年より残食率が減っている。教職員の細やかな給食指導もあるが、児童も食に興味・関心が高く、好き嫌いが減ってきているように感じられる。

今後の課題

- ① 話し合い活動の前に、単元を進めるにあたって前学年の力がしっかりと備わっているかの確認が必要である。特に低学年のうちから話し合いの基礎を身につけなければならない。そのために、読書活動や研修、交流の型を作るなどの学校を挙げた取り組みをしていかなければならない。
- また、話し合いを通して身につけたい力や視点を明確にして、目標を持って交流活動に取り組ませたい。そして、指導者が児童全員参加を意識した交流活動の在り方を図っていく。
- ② 音読活動の際に全体のスピードについてこられない児童がいる。書く活動においても同様で、国語に苦手意識を感じる児童がいる。その解決のために基礎学力の向上を目指す必要がある。漢字検定の実施の継続や並行読書、意味調べで語彙を増やすなどの活動を通して、文字に慣れていかなければならない。
- また、高学年で「国語の学習が好きでない」と考える児童が多いので、高学年での国語の授業の進め方を研修していく必要があると考えられる。
- ③ 課題として、学年が上がるごとに体育好きの児童が減っていることがあげられる。体を動かすことを楽しめるように体育の授業において、児童の実態に合ったスモールステップを踏んでいけるような場の設定を取り入れていく必要がある。また、一人ひとりが個々に目標を持ち、その目標に寄り添った授業作りが必要にもなってくる。休み時間には、多様な運動ができるよう、様々な種類のボールを用意するなど、主体的に運動をできる場を設定するようにする。
- また、食への関心を高める指導や、清潔に過ごす習慣を身につけさせるためには、栄養指導や給食の時間に声かけをしていくこと、清潔調べ週間以外でも、ハンカチ・ティッシュなどを持ってくるように呼びかけることが大切だと考えられる。

大阪市立大道南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の67%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) (R6：66.7%)</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を67%以上にする。 (R6：66.7%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査・校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を51%以上にする。 (R6：経年50.4% 校内69%)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを積極的に活用し、学習に生かす。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の67%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) 校内調査における「パソコン・タブレットを使って、与えられた課題に取り組んだり解決したりできますか」に対して、肯定的に回答する割合を90%以上にする。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人の働き方改革を推進し、教職員の超過勤務時間を減少させる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を67%以上にする。 教職員のゆとりの日について、月3回以上設定する。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の活性化を図るとともに区の図書館と積極的に連携し、読書活動を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を51%以上にする。 東淀川区図書館と連携を取り合い、図書館の団体貸し出しを年3回(毎学期)行う。 学校図書館の児童の本の貸し出し冊数を校内平均33冊以上にする。 (R6 32.7冊) 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 児童の学習者用端末の使用の割合が毎月80%以上に対して12月末時点では月平均が86.8%と目標を大きく達成している。また、校内調査の「パソコンやタブレットを使って、与えられた課題に取り組んだり、解決したりすることができますか」の質問対しても95.8%とこちらも大きく達成している。担任の先生から児童に日々心の天気を入れるように声掛けをしていることで心の天気の入力率も毎月75%を超えている。中間報告の時に比べてルールを守らずに使用する児童も減少した。学習の単位によってはSKY MENUやGoogle機能を生かしている。しかし、学年によって学習においての使用率にばらつきがある。
- 教職員にはCANVAの研修会を行った。しかし、教職員によってはCANVAを活用しているがまだまだ生かし切れていないことも現状である。
- ② ゆとりの日を月に3回以上設定して、ゆとりの日は教職員全体的に17:30までに退勤することを意識している。その結果、昨年度に比べて基準1を満たしている教員が増加している。会議の進行を早めたり、放課後の時間にゆとりを持ったりすることで自分の業務の時間を多めにとるようになった。しかし、勤務時間外にならないように、仕事を持ち帰って家でしている教職員もいる。
- ③ 「読書は好きですか」の項目で肯定的な回答が68.7%で目標を達成しているが、中間に比べて9%ほど落ちている。また、家庭でも読書をした割合も中間の時に比べて落ちている。しかし、肯定的に答える割合が51%に対しては17%以上と大きく上回っている。
- 図書館と連携をとった団体貸し出しは年3回行うことができた。貸し出した本を手にとって読む姿も見られた。
- 学校内の年間で本を借りた冊数が2月初めの時点で1人平均26.2冊と昨年度の30.9冊よりも減少した。しかし、給食の時間の読み聞かせを取り入れたことで児童の本に対する興味の幅が少しずつ増えてきている。

今後の課題

- ① 本校での活用事例をデータに残していくなどの引き継ぎをしていけば、毎年活用の幅が広がっていく。また、本校ではパソコン操作を苦にしない児童が多いので、よりスキルアップした活用があってもよい。しかし、教職員の指示がない時でも勝手に使用している児童もわずかに見られるため、学校での使用のルールを徹底する必要がある。
- また、今後も教職員も活用の場を増やしていくために研修会を随時取り入れていく。
- ② 仕事の分担が進んでいるが、まだまだ改善の余地があると考えられる。今後さらに教員数が減ることによって仕事量や分担、効率化を進めていかないと対応できないようになってきている。学校行事が一つ増えたら減らすなど、必要な会議の精査をしていく必要がある。また、ペーパーレス化、前年度の資料の活用など、様々な面で効率化を図っていく必要もある。
- ③ 給食の読み聞かせや読書タイムを実施することで本を読むことに少しずつ親しんできているが、自習などのときに本を手にとって読む姿が見られない。児童の興味のある本を学級文庫に置いたり、アンケートを取ったりして実態に合った本の購入を考えていく必要がある。さらに、パソコンの活用も見直し、雨の日や給食後などはパソコンを使わず読書をする機会を設けていく。
- 来年度は、「休み時間は読書をしよう週間」や「児童や教職員の推薦図書」を掲示するなどの読書に親しむための取り組みの推進を図っていきたい。